

大ホール (S-21) 第一日目 5月28日 (土)

日本文化人類学会第50回研究大会記念シンポジウム

人類の道德性と暴力性をめぐって
——隣接諸科学との対話——

- 15:05-15:10 挨拶：ミカエル・カルマノ（南山大学学長）
- 15:10-15:15 趣旨説明：後藤明（南山大学教授）
- 15:15-16:00 講演1：長谷川真理子（総合研究大学院大学副学長）
「他者を感じ、理解する心の進化的基盤」
- 16:00-16:45 講演2：山極壽一（京都大学総長）
「言葉以前のコミュニケーションと道德の起源」
- 16:45-17:00 休憩
- 17:00-17:20 文化人類学からの応答：内堀基光（放送大学教授）
- 17:20-18:00 総合討論：長谷川真理子、山極壽一、内堀基光、後藤明（司会）

A会場 (S-22) 第一日目 5月28日 (土)

9:30-11:55 分科会 A① 調査者のライフイベントとフィールドワーク人生

代表者：椎野若菜 (東京外国語大学)

A1 趣旨説明

A2 椎野若菜 (東京外国語大学)

女性人類学者のライフコースに沿った民族誌研究にむけて一等身大でのフィールドとの対話へ

A3 杉田映理 (東洋大学)

子連れフィールドワーカーフィールドワーカーの立ち位置はどう変わるのか

A4 大門碧 (京都大学)

二重の受動性を生きるフィールドワークと「子どもをもつ」ことを両立させる難しさ

A5 菅野美佐子 (東京外国語大学)

ジェンダー価値の交差点としてのフィールドワーカー子連れ調査の経験から考える

A6 國弘暁子 (群馬県立女子大学)

容赦 (forgiveness)としてのギフト (gift) について考える—フィールドワークでの異邦者から参加者、そして当事者へのプロセスを通じて

コメンテータ：高橋絵里香 (千葉大学)、友永雄吾 (龍谷大学)

13:00-15:00 分科会 A② 福島県の創造的復興開発をめざして

代表者：関谷雄一 (東京大学)

A7 趣旨説明

A8 関谷雄一 (東京大学)

創造的復興開発の概念—避難者の状況に即した定義

A9 武田直樹 (筑波学院大学)

「つくば市での避難者支援この5年」アーカイブ制作の意味—セーフティネットの可視化の試みから

A10 箭内匡 (東京大学)

<不可視のもの>を語ること—原発被災とイメージの問題

A11 山下晋司 (帝京平成大学)

まなび旅・福島—公共ツーリズムの実践

コメンテータ：木村周平 (筑波大学)

B会場 (S-23) 第一日目 5月28日 (土)

9:30-11:55

分科会 B① やりとりの言語人類学

代表者：梶丸岳 (京都市立芸術大学)

B1 趣旨説明

B2 浅井優一 (順天堂大学)

文書の言語人類学—近代フィジーのテキスト化、あるいは歴史の所在

B3 梶丸岳 (京都市立芸術大学)

ラオスの掛け合い歌「カップ・サムヌア」におけるコンテキスト—歌のコンテキスト化と記号論的記述

B4 野澤俊介 (東京大学)

交感性、指標性、言語イデオロギー—引き金と握手

B5 宮崎あゆみ (お茶の水女子大学)

攪乱と創造される意味空間—日本の中学生とジェンダー言語イデオロギー

B6 山下里香 (日本学術振興会)

ぼくのことば、パパのことば?—在日パキスタン人バイリンガル児童のウルドゥー語でのやりとり

コメンテータ：高田明 (京都大学)

13:00-15:00

分科会 B② ポストモダン時代における二つの〈自省〉性

代表者：加藤恵津子 (国際基督教大学)

B7 趣旨説明

B8 加藤恵津子 (国際基督教大学)

「自分探し」の偏在性と日本(語)的制約—ポストモダン時代の日本人移動者の自省性にみる言語-文化の影響

B9 スザンネ・クリーン (北海道大学)

Refusing to grow up?: Self-reflexivity and changing self-views of mobile Japanese youth in Japan and Europe

B10 青山玲二郎 (香港理工大学)

The self-reflexive moment: Japanese corporate expatriates in Guangzhou (広州) and the Sino-Japanese tensions in the East China Sea

B11 堀口佐知子 (テンブル大学ジャパンキャンパス)

日本を通して自己を見つめる—JET プログラムをきっかけに来日した外国人日本研究者の語りをめぐる

コメンテータ：松田素二 (京都大学)

C会場 (S-46) 第一日目 5月28日 (土)

- 9:30-9:50 C1 松岡陽子 (山口大学)
社会変化のベクトルは内から外へー「遺伝子が組み換え」られたケニア・エンブ社会
- 9:55-10:15 C2 堀江未央 (京都大学)
「家神が彼女を見なくなった」一夫婦関係と家の秩序に関する雲南ラフの語りと実践
- 10:20-10:40 C3 徐幼恩 (桃山学院大学)
台湾・高雄市の越境結婚におけるアジア人妻の主体性ー移住労働者から結婚移民となったタイ人女性とベトナム人女性の事例から
- 10:45-11:05 C4 藤倉康子 (国立民族学博物館)
出生登録における「父親」の存在と不在ー西ネパールの市民権証取得運動の事例より
- 11:10-11:30 C5 中川加奈子 (京都大学)
アイデンティティの狭間からの「カースト」再創造ーネパールで肉売りを担う人びとをめぐる動態
-
- 13:00-13:20 C6 川瀬由高 (首都大学東京)
「このトマトは都会人が一番好きなものだ」ー中国農村における都市を参照概念とした生活世界の構築についての試論
- 13:25-13:45 C7 安念真衣子 (京都大学)
日常生活における文字の使用ーネパールの農村地域における女性のリテラシー実践
- 13:50-14:10 C8 金子亜美 (東京大学)
チキタノ語の親族名称におけるジェンダー指標をめぐる
- 14:15-14:35 C9 戴寧 (首都大学東京)
日中国際児の「資源」としての多重文化的家庭環境ー国際結婚家庭に生まれた子どもの自己形成プロセスを事例に
- 14:40-15:00 C10 岩瀬裕子 (首都大学東京)
こどもたちの移籍をめぐるースペイン・カタルーニャ州「人間の塔」の事例から

D会場 (S-47) 第一日目 5月28日 (土)

9:30-11:55 分科会 D① **災害ミュージアムの役割と可能性**

代表者：宮脇千絵 (南山大学)

D1 趣旨説明

D2 **阪本真由美** (名古屋大学)

災害の記憶の想起の装置としてのミュージアム

D3 **田上繁** (神奈川大学)

東日本大震災による被災資料の救出活動と収蔵庫建設の取り組み—宮城県
気仙沼市大島漁業協同組合資料の救出と保全

D4 **川島秀一** (東北大学)

年中行事から考える博物館の災害展示

D5 **呂怡屏** (総合研究大学院大学)

文化復興の資源としての博物館の展示と収蔵—台湾の小林平埔族群博物館
を中心に

コメンテータ：内尾太一 (麗澤大学)、吉田憲司 (国立民族学博物館)

13:00-15:00 分科会 D② **黒船としての文化遺産**

代表者：飯田卓 (国立民族学博物館)

D6 趣旨説明

D7 **飯田卓** (国立民族学博物館)

担い手にとっての文化遺産の価値と、観光客にとっての文化遺産の価値—マ
ダガスカル中央高地ザフィマニリの木彫り工芸と木造建築

D8 **吉田ゆか子** (日本学術振興会)

無形文化遺産の担い手コミュニティとは何か—「美しきインドネシアミニチ
ュア公園」のベスト・プラクティスへの申請から考える

D9 **兼重努** (滋賀医科大学)

無形文化遺産登録をめぐるせめぎあい—トン族大歌の事例から

D10 **門田岳久** (立教大学)

沖縄・斎場御嶽をめぐる開発思想と住民参加

コメンテータ：岩崎まさみ (北海学園大学)、佐々木重洋 (名古屋大学)

E会場 (S-48) 第一日目 5月28日 (土)

- 9:30-9:50 E1 **飛内悠子** (大阪大学)
啓蒙と奇跡が会おうときーウガンダ共和国アジュマニ県における超
教派的キリスト教礼拝集会
- 9:55-10:15 E2 **高村美也子** (国立民族学博物館)
スワヒリ農村地域における在来儀礼の継続ータンザニア・ボンデイ
社会の儀礼と外来宗教との併存
- 10:20-10:40 E3 **スヘー・バートルガ** (モンゴル国立大学)
モンゴルに芽生える新たなイスラーム社会ーカザフ人マイノリティ
のイスラーム復興と宗教外交をとりまく試練と実践
- 10:45-11:05 E4 **宇田川彩** (東京大学)
二つのブックフェア・二つのアーカイブーブエノスアイレスのユダ
ヤ人コミュニティにおける「文化」と「宗教」
- 11:10-11:30 E5 **相澤里沙** (立教大学)
「宗教」の再形成ーインドネシア中央カリマンタン州ダヤク人の事
例から
-
- 13:00-13:20 E6 **相馬拓也**
アルタイ山脈における「第六の家畜」ーカザフ騎馬鷹狩文化が誇る
イヌワシ馴化の知と技法
- 13:25-13:45 E7 **今村薫** (名古屋学院大学)
種を越えたハイブリッドを作出しつづける人たちーカザフスタンに
おけるラクダ飼育の現状
- 13:50-14:10 E8 **湖中真哉** (静岡県立大学)
国内避難民による物質文化の再構築と人道支援枠組みー東アフリカ
遊牧社会の事例
- 14:15-14:35 E9 **渡邊麻理亜** (名古屋大学)
頭髮を利用した薬品『血余炭』ー中国での事例を中心に
- 14:40-15:00 E10 **大坪玲子** (東京大学)
嗜好品が薬物になる時ーカート (Catha edulis Forsk) の事例から

F 会場 (S-49) 第一日目 5月28日 (土)

- 9:30-9:50 F1 竹川大介 (北九州市立大学)
互惠と共感の正義論—共同体ガバナンスにおける普遍的道徳基盤研究の可能性
- 9:55-10:15 F2 大津留香織 (北九州市立大学)
疫病の理由と文化の正当性主張の葛藤に関する考察—バヌアツ共和国エロマンガ島の疫病の語りと葛藤の事例から
- 10:20-10:40 F3 手塚恵子 (京都学園大学)
ダム後の流域再生における研究者の役割—保津川における NPO の活動から
- 10:45-11:05 F4 永井文也 (京都大学)
人類学者による先住民族権利運動への貢献の可能性—カナダのブリティッシュ・コロンビア州中央部における土地権原裁判を事例に
- 11:10-11:30 F5 高野さやか (日本学術振興会)
法と開発の人類学に向けて
-
- 13:00-13:20 F6 グエン・ティ・ホアイ・チャウ
現代ベトナム都市部における祖先祭祀の現状と変容—ホーチミン市を事例として
- 13:25-13:45 F7 菅沼文乃 (南山大学)
老年者をめぐる認識と実践—鹿児島県沖永良部島の「祖先崇拜」と高齢者福祉を事例として
- 13:50-14:10 F8 吉田佳世 (日本学術振興会)
乗り越えるものとしての祖先祭祀—沖縄本島北部 X 区の嫁 (ユミ) たちの語りに着目して
- 14:15-14:35 F9 佐藤純子 (名古屋大学)
地域社会の儀礼にみる倫理—沖縄県宮古島市島尻の仮面祭祀「パーントゥ」を事例として

G 会場 (S-56) 第一日目 5月28日 (土)

9:30-11:55 分科会 G① 過去に学ぶ／過去を活かす

代表者：鈴木紀 (国立民族学博物館)

G1 趣旨説明

G2 鈴木紀 (国立民族学博物館)

美術館の中のメソアメリカ文明—展示の詩学と政治学

G3 禪野美帆 (関西学院大学)

メキシコ市内旧先住民村落の「地元民」および隣接するエヒードの成員による先スペイン期遺跡の資源化

G4 小林貴徳 (関西外国語大学)

市民連帯による文化の資源化—メキシコ、 Cholula の大ピラミッド遺跡を含む都市景観をめぐって

G5 杓谷茂樹 (中部大学)

自文化の「資源化」から距離を置く地元住民—チチェン・イツァ遺跡公園における露店商の選択

G6 本谷裕子 (慶応義塾大学)

先スペイン期起源の織機が織り成すグアテマラ高地先住民女性の衣文化とその変容

コメンテータ：青山和夫 (茨城大学)

13:00-15:00 分科会 G② 脱生業化時代における生業論の再検討にむけて

代表者：尾崎孝宏 (鹿児島大学)

G7 趣旨説明

G8 尾崎孝宏 (鹿児島大学)

馬乳酒をめぐる生産・流通・消費—南モンゴル、シリングル盟の事例および地域間比較より

G9 風戸真理 (北星学園大学)

モンゴル国のフェルト生産の変化と国家・市場の影響—工場製の実用品とハンドメイドのおみやげ

G10 波佐間逸博 (長崎大学)

東アフリカ牧畜民ドドスにおける家畜の交換性

G11 卯田宗平 (国立民族学博物館)

トナカイ角の商品化と馴化技術の展開—中国大興安嶺のエヴェンキ族らの事例から

コメンテータ：池谷和信 (国立民族学博物館)

H会場 (S-57) 第一日目 5月28日 (土)

- 9:30-9:50 H1 相原健志 (慶応義塾大学)
食人、「翻訳」、コナトゥスーE. ヴィヴェイロス・デ・カストロにおける存在論の含意と射程
- 9:55-10:15 H2 早川和哉 (北陸先端科学技術大学院大学)
マーシャル・サーリンズとオセアニア・リージョナリズム—Eveli Hau'ofa の視点からサーリンズの仕事をつまみ直す—考察
- 10:20-10:40 H3 佐久間寛 (東京外国語大学)
ポランニー思想のマトリクス—『経済と自由』を中心に
- 10:45-11:05 H4 古川不可知 (大阪大学)
移動する身体、道としての身体—ネパール・ソルクンブ郡エベレスト南麓地域における道のアレンジメントについて
- 11:10-11:30 H5 左地亮子 (日本学術振興会)
ジプシーの想起なき「過去の生き方」—南仏・巡礼祭におけるジプシーたちの歩き方に着目して
-
- 13:00-13:20 H6 上杉健志 (日本学術振興会)
ベトナム枯葉剤問題と「不確実性」の内情—例と例外としてのダイオキシン・ホットスポット
- 13:25-13:45 H7 高垣雅緒 ((公財) ルイ・パストゥール医学研究センター)
原子炉の人類誌—放射能数値が意味するもの
- 13:50-14:10 H8 鈴木和歌奈 (京都大学)
予期、ケア、時間性—再生医療プロジェクトの事例から
- 14:15-14:35 H9 難波美芸 (一橋大学)
インフラストラクチャーの象徴性と物質性、テンポラリティーラオスにおける電気自動車の導入プロジェクト計画を事例に

I会場 (S-58) 第一日目 5月28日(土)

- 9:30-9:50 I1 佐本英規
竹(アウ)が鳴き、音(アウ)を聴くーソロモン諸島アレアレの竹製パンパイプスにおける変転する物質性
- 9:55-10:15 I2 登久希子 (国立民族学博物館)
現代美術の実践におけるエージェンシーのあり方ー「関係性の美学」とオルタナティヴ・スペースを事例に
- 10:20-10:40 I3 増野亜子 (東京芸術大学)
宗教的マイノリティの芸能実践と社会的関係性の構築ーバリ島ムスリムの芸能民族誌にむけて
- 10:45-11:05 I4 香室結美 (熊本大学)
美と牛ーヘレロ女性の牛ファッションと E・P が描くヌエルの美における蕩尽
- 11:10-11:30 I5 コーカー・ケイトリン (京都大学)
舞踏伝承における身体性・言葉・感覚
-
- 13:00-13:20 I6 石田智恵 (日本学術振興会)
「失踪」と「死」のあいだーアルゼンチンにおける「失踪者」親族の語りから
- 13:25-13:45 I7 林美枝子 (日本医療大学)
看取りにおける経験知の集積とその社会的継承について
- 13:50-14:10 I8 飯田淳子 (川崎医療福祉大学)
死にゆく身体を描くー絵手紙に表わされた終末期患者の人格
- 14:15-14:35 I9 直井里予 (京都大学)
リアリティ表象における映画制作者の視点ー北部タイにおける HIV をめぐる関係性のドキュメンタリー映画制作に伴う考察

A 会場 (S-22) 第二日目 5月29日 (日)

9:30-11:55 分科会 A③ 思想としての人類学を再考する

代表者：大杉高司 (一橋大学)

A12 趣旨説明

A13 浜田明範 (国立民族学博物館)

再分配のセリー—ガーナ南部における「社会的なもの」の「部分的つながり」

A14 田口陽子 (日本学術振興会)

市民社会と政治社会の部分的つながり—インドの運動に準拠しながら

A15 内山田康 (筑波大学)

逃れる女神と包摂を夢見るデュモンの全体

A16 清水高志 (東洋大学)

拡張 (extend) する理論—ストラザーンから現代哲学へ

A17 大杉高司 (一橋大学)

知の再生と再配置がもたらす「新しさ」について—『部分的つながり』によせて

コメンテータ：出口顕 (島根大学)

15:45-17:45 分科会 A④ 被災地の民族誌

代表者：李仁子 (東北大学)

A18 趣旨説明

A19 佐藤悦子 (岩手大学)

被災地の「共同化」される漁業再建—宮古市 T 地区を事例に

A20 二階堂裕子 (ノートルダム清心女子大学)

東日本大震災被災地におけるコミュニティ再生への歩みとボランティア—宮城県名取市の仮設住宅で暮らす被災者の社会関係の変容

A21 金谷美和 (国立民族学博物館)

手仕事グループがつくる「つながり」の諸相—東日本大震災被災地の調査から

A22 李仁子 (東北大学)

被災者の生活再建と「つながり」の諸相—被災地の民族誌に向けての一断章

コメンテータ：佐藤知久 (京都文教大学)、加藤幸治 (東北学院大学)

B会場 (S-23) 第二日目 5月29日 (日)

9:30-11:55

分科会 B③ 贈与論再考

代表者：岸上伸啓 (国立民族学博物館)

B12 趣旨説明

B13 岸上伸啓 (国立民族学博物館)

マルセル・モースの贈与概念と狩猟採集民の分配—アラスカのイヌピアット社会を事例として

B14 丹羽典生 (国立民族学博物館)

ヴァス論再考—フィジーにおける贈与関係の変遷

B15 立川陽仁 (三重大学)

ポトラッチとは、ポトラッチの贈与とは

B16 藤本透子 (国立民族学博物館)

カザフスタンにおける喜捨の展開—神・死者・生者の関係に着目して

B17 山口睦 (東北大学)

災害支援と贈与—20世紀前半の婦人会活動を事例として

コメンテータ：なし

15:45-17:45

分科会 B④ 東アジアの観光の政治学

代表者：上水流久彦 (県立広島大学)

B18 趣旨説明

B19 沼崎一郎 (東北大学)

「感情生活」の接触と葛藤—観光の政治学への人類学的アプローチの試み

B20 中村八重 (啓明大学校)

「嫌悪感」の構築と変遷—韓国人による対馬観光を事例として

B21 上水流久彦 (県立広島大学)

台湾の中国人観光客を巡る観光の政治学—ネーションなのか、感情なのか

B22 越智郁乃 (兵庫県立大学)

『観光地』沖縄の野心?—ポスト基地社会の消費増大にむけた開発との連関

コメンテータ：真鍋裕子 (東京大学)、張玉玲 (山口県立大学)

C会場 (S-46) 第二日目 5月29日 (日)

- 9:30-9:50 C11 山崎幸治 (北海道大学)
アイヌ工芸と「伝統的工芸品」—「二風谷イタ」「二風谷アットゥシ」を中心に
- 9:55-10:15 C12 角南聡一郎 ((公財)元興寺文化財研究所)
近現代日本の外来系背負梯子—在日の物質文化研究に向けて
- 10:20-10:40 C13 佐久間香子 (京都大学)
モノを媒介とした人と自然の歴史的関係—ボルネオの‘ツバメの巣’に注目して
- 10:45-11:05 C14 山口徹 (慶應義塾大学)・臺浩亮 (慶應義塾大学)
モノから「収集の歴史」を考える—ニューアイルランド島のウリ像を対象にして
- 11:10-11:30 C15 齋藤貴之 (星城大学)
身体と道具のインターフェイスとして機能する鍛冶屋
-
- 15:45-16:05 C16 田村和彦 (福岡大学)
中国の「広場舞」をめぐる親密性/公共性形成について—「熱情的人」を中心とする人間関係を中心に
- 16:10-16:30 C17 中生勝美 (桜美林大学)
対日戦略をめぐるアメリカの応用人類学—『菊と刀』の背景にある人類学と軍事情報分析
- 16:35-16:55 C18 澤井充生 (首都大学東京)
「回奸」と呼ばれた日本軍協力者—日本軍の「蒙疆」占領と回民の植民地経験
- 17:00-17:20 C19 酒井貴広 (早稲田大学)
戦後高知県における「犬神」の変容に関する研究—学術研究の文献資料を通じた社会への還元注目して

D会場 (S-47) 第二日目 5月29日 (日)

9:30-11:55 分科会 D④ 有形と無形の人類学

代表者：廣田龍平 (筑波大学)

D11 趣旨説明

D12 廣田龍平 (筑波大学)

「妖怪」概念の人類学的再検討—有形と無形のあわいに存する民俗的対象について

D13 オオツキ グラント ジュン (筑波大学)

The “I” in Information The Tangible and Intangible in Japanese Wearable Interface Research

D14 カナシロ アウヴァロカツアキ (筑波大学)

When Illness is Cure: Spiritual Agency Over Humans Beings
Ethnographic Fragments From a Brazilian Spiritist Center in Japan

D15 李セイ (首都大学東京)

「妖狐なんかコワくない？」—日本都市社会における「妖狐」の認識に関する試論

D16 近藤祉秋 (アラスカ大学フェアバンクス校)

「隠岐は水木サンのルーツです」—観光開発と明滅する「妖怪」

コメンテータ：石井美保 (京都大学)

15:45-17:45 分科会 D④ 異分野から見た文化人類学

代表者：島田将喜 (帝京科学大学)

D17 趣旨説明

D18 高橋康介 (東京大学)

フィールドにおける認知実験—認知心理学者という立場からの随想

D19 柴田隆史 (東京福祉大学)

フィールドワークにおける 3D 映像の活用—人間工学的視点と 3D 映像の機能性に注目した取り組み

D20 島田将喜 (帝京科学大学)

「チンパンジーの動物殺し」の感情論—霊長類学と文化人類学の出会いが生んだもの

D21 高田明 (京都大学)

子育ての相互行為分析—言語的社会化論によるアプローチ

コメンテータ：大石高典 (東京外国語大学)

E会場 (S-48) 第二日目 5月29日 (日)

- 9:30-9:50 E11 矢島妙子 (明治大学)
都市祝祭の継承性—四半世紀を迎える「YOSAKOIソーラン祭り」
- 9:55-10:15 E12 山崎真之 (早稲田大学)
小笠原島民の移動と世界自然遺産
- 10:20-10:40 E13 青木恵理子 (龍谷大学)
産炭地社会への望郷と炭鉱の世界遺産化—小さな物語が大きな物語に仕掛ける、モノに託した集合記憶の闘いの考察
- 10:45-11:05 E14 小林宏至 (日本学術振興会)
行政主導の「聖地」づくり—客家「聖地」からみる文化表象のポリティクス
- 11:10-11:30 E15 日丸美彦 (愛知県立大学)
儀礼としての綱引きの境界性—ハバオ村の伝統綱引きブンノクによる地域再生
-
- 15:45-16:05 E16 下田健太郎 (慶應義塾大学)
「再生」と「甦り」—「本願の会」メンバーの儀礼と語りにみる水俣病の記憶化とその伝達をめぐって
- 16:10-16:30 E17 森正美 (京都文教大学)
人類学の全体性と横断性を活かす—地域における実践活動から
- 16:35-16:55 E18 亀井伸孝 (愛知県立大学)
学生たちの潜在能力を活用するフィールドワーク教育—愛知県立大学国際関係学科「旅の写真展」の実践報告
- 17:00-17:20 E19 飯嶋秀治 (九州大学)
ポスト罹災地での文化人類学演習—エデュケーションにおける応答の人類学

F 会場 (S-49) 第二日目 5月29日 (日)

- 9:30-9:50 F10 村橋勲 (大阪大学)
難民の生計における「自立」と依存—ウガンダの難民居住地における南スーダン難民の小農経済と社会経済関係
- 9:55-10:15 F11 石井洋子 (聖心女子大学)
ケニア・ギクユ人移民の現在と「頭脳流出」をめぐる—考察—米国メリーランド州での調査報告
- 10:20-10:40 F12 東聖子
移民による文化再興の可能性—カナダ、トロント市周辺のパンジャープ移民の事例より
- 10:45-11:05 F13 後藤健志 (筑波大学)
土地占有者たちにとっての自由—ブラジル、マト・グロッソ州における農地改革を事例として
- 11:10-11:30 F14 神山歩未 (名古屋大学)
写像としての移民マオリによる「先住民」ポリティクス—オーストラリア、シドニーのマラエ建設計画を例に
-
- 15:45-16:05 F15 中川敏 (大阪大学)
異文化の遊び方
- 16:10-16:30 F16 岩谷洋史 (神戸大学)
再帰的な人類学におけるエスノグラフィーのあり方—日本における清酒業の現場を事例として
- 16:35-16:55 F17 竹村和朗 (東京大学)
個人の語りを書く—エジプト・ブハイラ県バドル郡の住民 G を事例として
- 17:00-17:20 F18 木下靖子 (北九州市立大学)
フィールドワーク力を高める—一旦過市場「大學堂」の運営の事例から

<映像作品上映>

- | | |
|-------------|--|
| 9:30-10:30 | G12 直井里予 (京都大学)
『いのちを紡ぐー北タイ・HIV 陽性者の 12 年』 |
| 10:40-11:40 | G13 南出和余 (桃山学院大学)
『バングラデシュの教育第一世代ー子ども期～若者期』 |
| 11:50-12:00 | G14 田沼幸子 (首都大学東京)
『オープン・ガーデンズをする理由』 |

H会場 (S-57) 第二日目 5月29日 (日)

- 9:30-9:50 H10 山本文子 (国立民族学博物館)
霊媒になる方法—ミャンマー都市部ヤンゴンにおける精霊信仰の事例から
- 9:55-10:15 H11 福浦一男 (滋賀医科大学)
北タイ、チェンマイの霊媒術と精霊信仰—その歴史性と現代性
- 10:20-10:40 H12 津村文彦 (名城大学)
見えないタトゥーをもつこと—東北タイにおけるサックヤンにみる可視と不可視
- 10:45-11:05 H13 許銀珠 (北海道大学)
巫堂は養母として依頼者を預かる—龍井地域のM村で発見した巫堂のノートを中心に
- 11:10-11:30 H14 山口亮太 (京都大学)
呪医に聞けばわかるのか?—カメルーン東南部、農耕民バクエレの妖術とリアリティ分離
-
- 15:45-16:05 H15 奥田若菜 (神田外語大学)
連帯と社会的距離—富裕層から貧困層への一方的贈与
- 16:10-16:30 H16 河野正治 (筑波大学)
首長への贈与と複数のタイミング—マイクロネシア・ポーンペイの儀礼的貢納にみる計算とモラリティ
- 16:35-16:55 H17 小林誠 (首都大学東京)
マナと豊穡性の関係の再考—ポリネシア・ツバルからみる首長のマナの現在
- 17:00-17:20 H18 門馬一平 (北九州市立大学)
個人の思惑が形成する贈与交換のシステム—パプアニューギニア・ルイジアーダ諸島における交易と贈与儀礼

I会場 (S-58) 第二日目 5月29日(日)

- 9:30-9:50 I10 浮ヶ谷幸代 (相模女子大学)
精神医療と宗教との連携による「地域ケア」の創出—北海道えりも町の<カフェデモンクえりも>の活動から
- 9:55-10:15 I11 杉本洋 (新潟医療福祉大学)
病気や障害の当事者活動のサブカルチャー的側面から見えてくるもの
- 10:20-10:40 I12 江藤双恵 (獨協大学)
タイ農村女性と福祉—コミュニティ開発専門職員として働く「村の女性」の実践から
- 10:45-11:05 I13 森明子 (国立民族学博物館)
ケア概念の可能性—社会的なものの民族誌のために
- 11:10-11:30 I14 高橋絵里香 (千葉大学)
連帯とボタン—緊急通報システムにみる福祉国家への応答と配慮
-
- 15:45-16:05 I15 大戸朋子 (KDDI 研究所)
同一嗜好の女子コミュニティにおける評価と「愛」
- 16:10-16:30 I16 近藤宏 (国立民族学博物館)
ブタという形象—パナマ東部先住民エンベラにおける権力の一側面
- 16:35-16:55 I17 斎藤俊介 (首都大学東京)
ランナー主義の興隆—北部タイ平地社会におけるアイデンティティ鼓舞運動
- 17:00-17:20 I18 宮内壽美 (明治大学)
イメージとしての過去の創出—茶道稽古における歴史化

K会場 (S棟3階受付前) 第二日目 5月29日(日)

<ポスター発表>

9:00-16:00 (質疑応答 11:30-12:50)

K1 辻貴志 (国立民族学博物館)

零細漁民社会における野菜の栽培・購入・摂取の困難と対応—フィ
リピン・セブ州マクタン島の事例